

令和5年度 公益財団法人国際エメックスセンター事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

(1) 第14回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス14）の開催準備等

① 科学・政策委員会の開催

第26回科学・政策委員会を開催してエメックス14の開催時期について協議を行い、令和6（2024）年から令和8（2026）年に変更することを確認した。

開催日時	令和5（2023）年7月28日（金）17：00～18：30（日本時間）
開催方法	オンライン
協議事項	・エメックス14の開催時期の変更について ・科学・政策委員の任期満了に伴う次期委員の選任について

② 開催時期・開催地・開催方法等の見直し

第28回理事会（令和6年3月12日開催）において、これまでのエメックス会議の成果や課題等を検証の上、開催時期・開催地・開催方法等を含めた抜本的な見直しを行うことを決定した。


(2) 国内外機関との連携

① 国際機関との連携

ア 日仏海洋学会との連携

小松 国際エメックスセンター副理事長が会長を務める日仏海洋学会が主催する「第19回日仏海洋学シンポジウム（Coast Caen 2023）」において、里海に関するセッションを共催して、講演者3名を派遣することによって、日本における里海の取組みと国際エメックスセンターを国内外にPRした。

開催期間	令和5（2023）年10月24日（火）～27日（金）4日間
開催場所	カーン・ノルマンディー大学（フランス）
主催	日仏海洋学会
テーマ	陸と海の境界における地球規模の変動に対する適応 ～生態系とエネルギー転換の共有のために～
プログラム	10月24日（火）：開会式、基調講演、ポスター発表 10月25日（水）：分科会 10月26日（木）：分科会 10月27日（金）：基調講演、閉会式
講演内容 ※当センター派遣者のみ記載 ※演題は仮訳	①講演者：松田 治（広島大学名誉教授、国際エメックスセンター 前副理事長、客員研究員） 演 題：日本の沿岸地域における里海のご概念と活動（基調講演）

	<p>②講演者：鹿熊信一郎(佐賀大学 教授) 演 題：日本・沖縄の里海、サンゴ礁</p> <p>③講演者：田中 丈裕((特非)里海づくり研究会議理事・事務局長) 演 題：アマモ場と牡蠣養殖が生み出した里海</p>  <p>松田 治氏による基調講演</p>
--	--

イ PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

PEMSEA※の非政府パートナーとして、「第15回EAS（東アジア海域）パートナーシップ会議」に参加し、東アジア海域の持続可能な開発と沿岸環境管理に関する情報交換・共有等を行い、連携強化を図った。

開催日時	令和5（2023）年7月28日（金）
開催方法	オンライン
出席者	PEMSEA評議員、政府パートナー、非政府パートナー
協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDS-SEA（東アジア海域持続可能な開発戦略）実施計画 2023- 2027に関する協議 ・ EAS kongress 2024開催に関する協議 ・ エメックスからは昨年度に引き続き、「高校生海洋環境保全研究発表会」を開催することにより、次世代の海洋環境保全を担う人材育成を目指すことを情報共有した。

※ Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia

設立：1994年 国連開発計画(UNDP)により設立
(日本は2002年から参加)

構成：【政府パートナー】

カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、北朝鮮、フィリピン、韓国、シンガポール、東ティモール、ベトナム

【非政府パートナー(主なもの)】

国際エメックスセンター(EMECS)、海洋政策研究所(OPRI)、北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)、PEMSEA地方政府、ネットワーク(PNLG)他

ウ ECSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

ECSA※との情報交換等を通して連携強化を図った。

※ Estuarine & Coastal Sciences Association（河口域・沿岸科学学会）

設立：1971年 イギリスのハル大学に事務局を設置

エ MEDCOAST（地中海沿岸）財団との連携

MEDCOAST財団※との情報交換等を通して連携強化を図った。

※ Mediterranean Coastal Foundation

設立：1993年 トルコのアンカラに事務局を設置

オ SDGs目標14ボランティア・コミットメントによる発信

平成31（2019）年2月に登録したボランティア・コミットメント※に基づき、令和4（2022）年3月から令和5（2023）年2月までの活動結果として、エメックス14開催に関する協議、第3回里海カンファレンス開催、令和4年度高校生海洋環境保全研究発表会開催について、国連ホームページに登録した。

※エメックス SDGs目標14 ボランティア・コミットメント要旨

エメックス会議を通じて閉鎖性海域の環境保全に係る課題を解決するための知的ネットワークを構築し、閉鎖性海域の統合的管理の重要性を世界に発信する。

② 国内機関との連携

ア（特非）海辺づくり研究会との連携

古川恵太科学・政策委員会委員が代表を務める（特非）海辺づくり研究会が主となり開催する「国際アマモ・ブルーカーボンワークショップ2023」へ協賛し、国際エメックスセンター事務局員が参加した。

開催期間	令和5（2023）年11月17日（金）～19日（日）3日間
開催方法	ハイブリッド方式 （笹川平和財団国際会議場及びオンライン配信）
主催	国際アマモ・ブルーカーボンワークショップ実行委員会 （参加団体：（特非）海辺づくり研究会、笹川平和財団海洋政策研究所、外4団体）
参加人数	延べ約500人（主催者発表）
プログラム	11月17日（金）：基調講演、パネル討論 11月18日（土）：基調講演、セッション「実践の最前線1～3」 11月19日（日）：基調講演、セッション「実践の最前線4」、環境ロールプレイングゲーム  エメックスセンター協賛バナー  パネル討論

イ (特非)里海づくり研究会議との連携

(特非)里海づくり研究会議(理事長 松田 治)等と連携し、里海づくりに取り組む人々が一堂に集う場として開催する「第4回里海カンファレンス」(開催地:高知県大月町柏島)について、同研究会議及び現地事務局となる(特非)黒潮実感センターと令和6年2月に協議を行い、同年11月上旬の開催に向けて準備を進めることになった。

[開催時期] 令和6(2024)年11月9日(土)~10日(日)(予定)

[開催場所] 大月町農村環境改善センター(高知県大月町柏島)

[開催内容] 11月9日(土):講演

11月10日(日):フィールドトリップ

ウ 西日本国際環境協力機関連絡会との連携

西日本にある国際的な環境協力を行う機関の連絡会である西日本国際環境協力機関のワーキンググループ・メンバーとして、「第31回西日本国際環境協力機関連絡会」に参加し、情報交換、意見交換を行った。

開催日時	令和5(2023)年11月21日(火)14:00~16:00
開催方法	オンライン
参加者	<ワーキンググループ・メンバー> (公財)国際湖沼環境委員会(ILEC) (公財)環日本海環境協力センター(NPEC) (公財)国際エメックスセンター(EMECS) (公財)国際環境技術移転センター(ICETT) (公財)地球環境センター(GEC) <オブザーバー・メンバー> (一財)海外産業人材育成協会 関西研修センター(AOTS/KKC) アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN) (公財)地球環境戦略研究機関 関西研究センター(IGES Kansai) (独)国際協力機構 関西センター(JICA/KSIC) (公財)地球環境産業技術研究機構(RITE) 国際連合環境計画 国際環境技術センター(UNEP-IETC)
議事	<ul style="list-style-type: none">各機関の2022年度及び2023年度の事業紹介新しい資本主義の実現に向けた公益法人制度改革の財政面での改正に向けた対応について基本財産の運用方針についてデジタル技術を活用した業務効率化等への取組について

(3) 調査研究事業

① 研究プロジェクトの検討

研究員会議において、当センター独自の研究としてふさわしいテーマ、研究体制及び実施方法などの具体的な検討を行うとともに、令和6年度に研究

計画を策定の上、着手する方針とした。

開催日時	令和6（2024）年2月26日（月）14：00～16：00
開催場所	スペースアルファ三宮（兵庫県神戸市中央区）
議 事	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度若手研究者活動支援制度について ・独自の調査研究について

② 若手研究者活動支援制度の実施

閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者を育成することを目的に、令和5年度若手研究者研究活動支援制度を実施した。本制度では、助成金と客員研究員による助言・指導が一体となった研究支援を行っており、若手研究者とのネットワーク構築の場としての役割も担っている。

対象者	国内の研究機関等に所属し、令和5年4月1日時点で満45歳以下もしくは博士号の学位取得から10年以内の若手研究者
助成期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
助成金額	審査により決定（1件あたり150万円が限度）
審査機関	客員研究員で構成する研究員会議
採択件数	応募総数9件から7件を採択（採択者の詳細は下表のとおり）
主な研究支援	<p>研究テーマによって割り当てた担当指導員（客員研究員）が若手研究者と年3回の指導会を実施した（現地・Web開催）。</p> <p>令和5年6月 キックオフ指導会 令和5年11月 中間報告会事前指導会 令和5年11月20日（月） 中間報告会 令和6年3月 最終報告事前指導会 （令和6年5月13日（月） 公開成果発表会）</p> <p style="text-align: center;">《中間報告会の様子》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">集合写真</p>

《令和5年度採択案件》

所属・職名・氏名	研究テーマ
九州大学 大学院工学研究院 助教 藤林 恵 【継続3年】	陸域から供給されるケイ素の歴史的変遷と干潟生態系の群集構造に与える影響(その3)
香川大学 農学部 研究員 中國 正寿 【継続3年】	沿岸域の魚類の複合養殖が表層堆積物中の有機物組成に与える影響
北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 伊佐田智規 【継続2年】	北海道厚岸湖のアマモ場における透明細胞外重合物質粒子（TEP）の変動要因の解明

東京大学 大気海洋研究所 助教 板倉 光 【継続2年】	有明海における遡河回遊魚エツの産卵・回遊生態の解明と保全に関する総合的研究
水産研究・教育機構 水産技術研究所 廿日市拠点 研究員 岡村 知海 【継続2年】	二枚貝浮遊幼生の餌である微小珪藻類の我が国沿岸域における分布と増殖特性に関する研究
東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授 中村 隆志 【新規】	陸域—海域—生態系統合モデルを用いた宮城県志津川湾デジタルツインの開発
富山大学 学術研究部 理学系 特命助教 小林 英貴 【新規】	炭素収支の解明を主とした沿岸域の炭素・栄養塩の動態把握：富山湾をモデルケースとして

③ 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等が進んだ湾奥部の環境の再生を目指して尼崎港に設置している生物共生護岸や人工干潟等の実証実験施設について、継続的な活用のための維持管理を行った。

2 情報収集整備活用事業

(1) インターネットによる情報発信等

ホームページやFacebook等によるタイムリーな情報発信を行った。これまでのエメックス会議(EMECS90～EMECS13)の発表アブストラクト2,779件をデータベース化したものをホームページに掲載して、検索項目のIndex(会議名)・Issue Date(発行日)・Author(著者名)・Titleを登録することによりホームページの充実強化を行った。

EMECS Conference Abstract:

<https://www.emecs.or.jp/en/world/presentationtext>

(2) エメックスニュースレター等による情報発信

国際エメックスセンターの活動状況等を掲載した「エメックスニュースレター第47号」(日本語・英語)を発行し、情報発信を行った。令和5年6月26日付で新たに就任した岡田光正 理事長の挨拶を掲載した。

また、メール配信システムを利用したメールマガジンについては、日本語版を第162号から第176号(15回)、英語版第64号から第69号(6回)を配信し、イベント等の開催案内などの情報発信を行った。

(3) パンフレットによる情報発信

令和5年6月26日付で新たに就任した理事長のメッセージ掲載のほか、国際エメックスセンターの調査研究事業や人材育成・普及啓発事業などの取り組みについて分かりやすく紹介することや、紙媒体を廃止して、電子媒体に特化したパンフレットに見直すための準備を行った。

(4) 広報アドバイザー会議の開催

各種の広報媒体の特性を活かして、国際エメックスセンターの広報活動を効果的に推進するため、令和2年度に創設した広報アドバイザー会議を令和5年9月15日(金)に開催した。ホームページの国内外のアクセス数の増加やパンフレットのリニューアルに対する意見のほか、若手研究者研究活動支援制度(前

述) 及び高校生海洋環境保全研究発表会(後述)の人材育成事業のPRに関する助言を受けて、令和5年度の事業実施に反映した。

3 人材育成・普及啓発事業

(1) 高校生環境保全研究発表会の開催

次世代の海洋環境保全を担う人材育成をより一層推進するため、「令和5年度高校生海洋環境保全研究発表会」を実施し、高校生が行っている沿岸域や流域の環境保全に資する研究活動について専門家が助言・指導を行う指導会及びその成果を公開で発表する研究発表会の2回に分けて開催した。

《令和5年度高校生海洋環境保全研究発表会の概要》

指導会	開催日時：令和5(2023)年11月3日(金・祝)10:00～16:10 開催場所：兵庫県民会館パルテホール(兵庫県神戸市中央区) 開催方法：非公開、対面方式
研究発表会	開催日時：令和6(2024)年1月27日(土)10:00～15:20 開催場所：スペースアルファ三宮 特大会議室(兵庫県神戸市中央区) 開催方法：公開、ハイブリッド方式(会場参加およびオンライン参加)
審査機関	高校生海洋環境保全研究発表指導委員会
参加校数	総応募件数9校の全校を選定
発表指導委員	川井 浩史(神戸大学内海域環境教育研究センター 特命教授) 今井 一郎(北海道大学 名誉教授) 張 勁(富山大学学術研究部理学系 教授) 森本 昭彦(愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授) 内山 雄介(神戸大学大学院工学研究科 教授)
研究発表会プログラム	1 開会挨拶(川井 浩史 座長) 2 研究発表 ①北海道小樽水産高等学校 「海洋環境改善につながる護岸の海の森プロジェクトⅡ～社会基盤への地域貢献～」 ②東京都立芝商業高等学校 「ひがたにやってきた～ビジネスを通じた環境保全への取組～」 ③宮城県南三陸高等学校 「松原海岸の生物調査」 ④広島県立広島国泰寺高等学校 「広島の河川におけるマイクロプラスチック汚染状況の調査およびMP汚染指標の作成」 ⑤愛媛県立松山北高等学校 「日本一ごみを拾っている高校生～忽那諸島における海ごみ問題への松山北高生の取り組み～」 ⑥兵庫県立加古川東高等学校 「大蔵海岸汽水域のプランクトンの季節的变化」 ⑦広島県立広島国泰寺高等学校

「ケイソウとケイ酸濃度との関係について」

⑧愛媛県立松山中央高等学校

「廃棄される昆布と学校実習スラグによる「ブルーカーボン」技術の開発」

⑨愛媛県立伊予農業高等学校

「被覆肥料由来マイクロプラスチック流出ゼロを目指して 一塩屋海岸への移動過程を探る」

3 審査

4 表彰式

最優秀賞：東京都立芝商業高等学校



優秀賞：宮城県南三陸高等学校



優秀賞：広島県立広島国泰寺高等学校（発表④）



優秀賞：愛媛県立伊予農業高等学校



	<p>5 講評</p> <p>川井座長から授賞理由を説明後、審査員4名が講評</p> <p>6 閉会挨拶（岡田 光正 理事長）</p>
--	---

（2）環境イベントへの出展等

○ Techno-Ocean 2023への出展

昭和61(1986)年に神戸で第1回が開催された、海洋の科学技術に関する国際コンベンション「Techno-Ocean」について、事務局を務める（一財）神戸観光局から令和5年度に開催される「Techno-Ocean 2023」の国際展示会に出展要請があり、当センター及び（公社）瀬戸内海環境保全協会が合同でブース出展を行った。

開催期間	令和5（2023）年10月5日（木）～7日（土） 3日間
開催場所	神戸国際展示場2号館、神戸市立ポートアイランドスポーツセンター（兵庫県神戸市中央区）
主催	テクノオーシャン・ネットワーク
共催	国立研究開発法人海洋研究開発機構、独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所、神戸市、一般財団法人 神戸観光局
来場者数	7,877人（主催者発表）
プログラム	10月5日(木)：プレナリーセッション、パネルセッション、国際展示会 10月6日(金)：パネルセッション、国際展示会 10月7日(土)：国際展示会、水中ロボット競技会、船の一般公開
当センター 展示内容	パネル4枚を展示。 ・国際エメックスセンターの概要 ・閉鎖性海域とエメックス会議の説明 ・高校生海洋環境保全研究発表会の紹介 ・SDGs14「海の豊かさを守ろう」ボランティアコミット・メント登録について



エメックス・瀬戸協同ブースの様子



国際展示会の様子